

6. 新潟県三条市からの実践報告

(1)三条市教育委員会の取組

高橋誠一郎（三条市教育委員会 指導主事）

- 1.三条市は小中一貫教育を推進しております。9年間を貫くカリキュラムの中で防災教育を実践していくということを三条市では取り組んでおります。
- 2.三条市は新潟県の防災教育プログラムに基づいて実践しております。新潟県防災教育プログラムは地震・津波・洪水・土砂・雪・原子力の6つの災害を対象につくられており、その中でも三条市は洪水災害編のプログラム作りを進めてまいりました。片田研究室の皆様、片田先生、金井先生からコーディネートしていただく中でプログラムを作ってまいりました。そしてこのプログラムに基づいて現在2年目の実践が進められているところであります。
- 3.この実践を進めていく中で教職員にアンケートをとりました。一番課題だと思われる部分については色が付いています。この課題に正対している現在の実践を4つの小中学校の方から発表させていただきたいと思っております。1つ目は「研修」です。教職員の意識がどう変わることが大事なのか。非常に高い評価があるのですが、「教職員の評価、意欲、意識を向上させるためにどのような研修が必要なのか」。そして2つ目として、「どのような位置づけでどのような教育課程の中でどのような教材を使って授業を進めていったら良いのか」。そして3つ目は、「地域とともに行う防災教育の在り方はどのような風にならなければならないのか」。そして4つ目は、「保護者の意識、学校の意識、ここで共感していくためにはどうしたら良いのか」。この4つの課題について取り組んでいる学校の紹介をこれからさせていただきます。
- 4 私の方からは最後になりますが、今年度から始めた防災キャンプという実施概要です。自助・共助の意識を高めるために、授業だけではなく体験的な活動を取り入れていく、これを今年度から始めてみました。



新潟県三条市 防災教育の取組
地域を愛する「姿勢の防災教育」

三条市は小中一貫教育を推進しています。

24年度から「県教委事業」新潟県防災教育プログラム
・地震・津波・洪水
・土砂・雪・原子力

24年度「三条市ワーキンググループ」
★市内小中学校代表者
★市教委小中一貫教育推進課
★市行政課防災対策室

24年度 ワーキング
・カリキュラム編成
・指導案、資料の協議

25年度 プログラム実行
・モザイク学区授業研究
・市内小中学校教員研修

26年度 プログラム完成
・前モザイク学区で授業研究
（保護者参観と見学）
・市内小中学校教員研修継続
・防災キャンプの実施

小中一貫教育における9年間を貫くカリキュラムにより、中学校区を単位とするモデル実践校が研究実践を継続する。
★26年度は保護者参観による学習内容の共有をテーマとした。

平成26年から体験的活動として「セーフティアドレッシング（防災キャンプ）」を中学校区単位で継続的に実施する。

防災教育授業に関する実態調査結果（調査対象者数：教員数10名、生徒数100名）

平成26年度「防災キャンプ」の概要

実施目的
児童・生徒が、学校教育外の環境（放課後、学校休業日）において、被災した場合に、自分の危険を回避できるような、必要な技術や知識を学習させ、「生き抜く力と姿勢」を育む。

実施時期・地区・会場
対象児童・生徒（小中一貫教育中間学年）

実施時期 平成26年8月7日～8日 実施地区 第四中学校区 第四中学校区 小学校5年生、6年生及び中学校1年生
実施会場 第四中学校（体育館、その他特別教室） ※実施校、地域の方々、教員、指導主事 計10名 計100名

【防災キャンプ取組事業内容】

体験 災害時の生活を体験する
・避難所共同生活体験（体育館に仮設し、分組して清掃及び配膳等の避難所生活を体験）
・非常食試食体験（アルファーマー等非常食を体験）

知識の習得 自分たちのまちを知る
・地域の危険箇所探査（地元自治会と合同で実施）
・地域安全マップの作成及び発表・水災を知る。
・水防学習館を利用した水防に関する研修
・新潟大学片田研究室（金井准教授）による防災講話（テーマ「自分たちができる防災・減災」）

技術の習得 災害時に役立つ技術を学ぶ
・救急救命に関する技術講習・水防学習館体験
・サバイバルフード調理体験